

Lautrec

「1メートル分のワインがあればいい」と、こよなく葡萄酒とシュザンヌと人生を愛した、天才画家ロートレック。彼が愛したシュザンヌ・ヴァラドンとはいったいどんな女なのか。

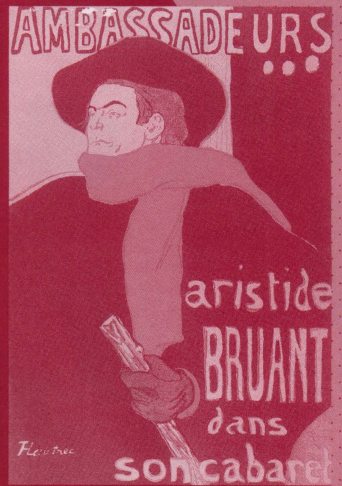
ロートレックは、フランス屈指の名門ロートレック家の嫡男として、約束されていた薔薇色の人生を自ら捨て去り、ムーラン街24番地、娼婦の館で葡萄酒のような味わいに富んだ生涯を駆け抜けた。彼が愛したシュザンヌ・ヴァラドンは、その魅力ですでにルノワールらのモデルとしてモンマルトルの女神であり、後の画家ユトリロの未婚の母として、また、女流画家としても認められるという数奇な運命を辿っていた。激しい愛で深い孤独感と才能を共有する二人は、愛し合いながらも、やがて破綻に向かっていく。ロートレックは、美、悲しみ、嫉妬、裏切り、欲望、人間の全ての感情の裏側に潜む本質的なものを、絵筆によって鋭く表現するのだった。



19世紀末、パリ、新しい時代を迎えようとするうねりの中で、ゴッホ、ドガ、そしてモンマルトルのダンサーや娼婦を愛し、その才能を開花した画家ロートレック。ルノワールのモデル、シュザンヌとの運命の恋に燃えるロートレックの涙と笑いの人生を描く。

もし、ロートレックの絵やポスターが動き出したら？

天才画家であると同時に、アートデザイナーでもあったロートレック。誰もが目にしたことのある代表作《ムーラン・ルージュ ラ・グリュ》《アンバサドールのアリスティド・ブリュアン》などが、本作の中で鮮やかに躍動して描かれ、ロートレックが何よりも描きたかった人々の一瞬の 때가、スクリーンで動き出すのだ。



ムーラン・ルージュのフレンチカンカンダンサーが総出演！1889年パリ万博でにぎわうモンマルトルを華麗に映像化！

監督に当るのは、シェイクスピア、マーロウ、などの舞台演出版家として知られ、93年には「ルイ、少年王」を監督したロジェ・プランション。主役のロートレックには「読書する女」で好演したレジス・ロワイエ。ロートレックの恋人役シュザンヌ・ヴァラドンに「ミナ」「カストラート」のエルザ・ジルベルシュタイン。ロートレックの父、アルフォンス伯爵には、フランス映画界の名優クロード・リッシュ。優しく見守る母役に、アネモース。また、華麗なロートレックの絵画の世界を見事に再現した『プロヴァンスの恋』のジャック・ルクセルが美術を担当。衣裳は「シラノ・ド・ベルジュラック」のピエール＝ジャン・ラロックによるもので、本年度、フランス・セザール賞最優秀美術賞、衣裳賞を見事受賞した。なお、本作はフランス アルビのツールーズ＝ロートレック美術館の全面的な協力によって、実現した。



1998年/フランス・スペイン合作
 カラー/国産/55インチスクリーン/126分
 サントラ監:ピクター・エンタテインメント
 配給:日本ヘラルド映画

ロートレックの涙と笑いの人生。 近日ロードショー!

前売鑑賞券絶賛発売中! 一般1,500円(当日一般1,800円(他))
 ※チケットぴあ、ローソン、主要プレイガイド他にて発売中!

梅田スカイビルタワーイースト4F 06(6440)5977
 梅田 ガーデンシネマ



各回入替制/上映日程および時間は劇場にお問い合わせ下さい。